

## 51. 服装の美意識に関する一考察

### ——Christian Dior における Classique——

大分大学芸 釘宮 久美

服装造形が、その形姿を成立する時、同時にそこには造形の Idea をみとめることができる。C. W. Cunnigton は、「コスチュームのアイディアは、“social rank, occupation, sex, attraction” に関係し、それが “symbol” と結びついて、“good line” を構成し、一時的な好みを超越して、その背後に “aesthetic correctness” を見るのである」と述べているが、服装の造形構造に伴う美意識には興味深いものがある。一応その時代的定着を肯定することのできる Christian Dior の作品と、その主張を、*française Vogue* (1951~1957) より抜き出し、考察を加えることにより、“simplicité” な造形のプリンスプルを軸線として構成されている作品に、“classique” な美意識を見出し、それが、服装造形上 social function と相協力して今日的性格を持つ存在であることを確認しつつ、その構造を追求してみた。